

# 京都府における結果の概要

## 1 実施概要

- (1) 実施日 平成20年4月22日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年
- (3) 実施教科等 ①教科に関する調査
- ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）
  - ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）
- ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
- ・児童生徒に対する調査
  - ・学校に対する調査
- (4) 実施学校・参加児童生徒数（4/22実施分）

小学校	対象学校数	学校数（実施率）		児童数
全国 公立学校	21,718校	21,685校	99.8%	1,147,633人
京都府 公立学校	427校	427校	100%	22,356人

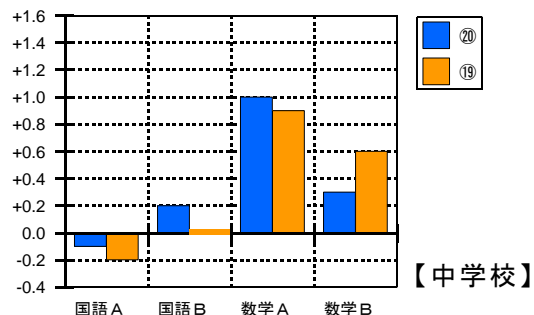
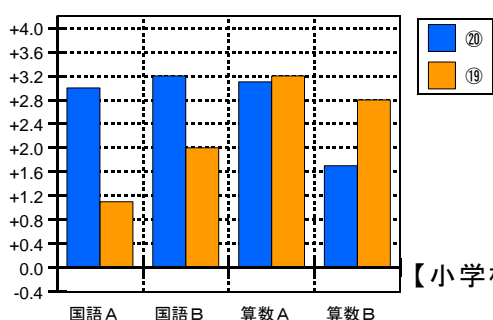
中学校	対象学校数	学校数（実施率）		生徒数
全国 公立学校	10,191校	10,120校	99.3%	1,030,521人
京都府 公立学校	179校	173校	96.6%	18,370人

## 2 教科に関する調査の実施結果（京都市を含む）

- (1) 平均正答率の状況 （数値は平均正答率）

教科等	国 語				算数・数学			
	A「知識」		B「活用」		A「知識」		B「活用」	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
小学校 （昨年度）	68.4 (82.8)	65.4 (81.7)	53.7 (64.0)	50.5 (62.0)	75.3 (85.3)	72.2 (82.1)	53.3 (66.4)	51.6 (63.6)
中学校 （昨年度）	73.5 (81.4)	73.6 (81.6)	61.0 (72.0)	60.8 (72.0)	64.1 (72.8)	63.1 (71.9)	49.5 (61.2)	49.2 (60.6)

<全国との比較> ※全国の平均正答率を0とした場合の京都府の状況



## (2) 概況

今回のテストで測定できる学力は、特定の一部ではあるが、結果を平均正答率や正答数分布などで見ると、京都府内の児童生徒の学力は、小学校では、全国水準をはるかに上回っている。中学校についても、ほぼ全国水準を維持している。従って、京都府の児童生徒の学力は、昨年度に引き続き、全国水準を超えている。

### <校種・教科別>

- 小学校においては、すべての教科や問題種別で全国水準をはるかに超えており、特に国語で昨年より大きく改善している。
- 中学校においては、国語については全国とほぼ同程度の状況で、数学では全国水準をやや上回り、全国水準を維持している。

### <問題種別>

- 「知識」に関する問題については、小学校においては、問題が難化したこともあって国語で一部課題が見られるが、算数においては、基礎的・基本的な内容を概ね身に付けている。中学校においては、国語・数学ともに更に身に付けさせる必要がある。
- 「活用」に関する問題については、すべての校種・教科ともに知識・技能を活用する力に課題が見られ、更に改善する必要がある。これらの問題種別に見られる傾向は、国全体の結果と同様の傾向である。

### <過去の調査問題との比較>

- 過去の調査と同一問題の正答率では、小学校では11設問(国語6、算数5)のうちすべてが、中学校では13設問(国語7、数学6)のうち8設問(国語4、数学4)が、3ポイント以上高くなっている状況である。

## 3 質問紙調査の結果

- 昨年度課題となっていた「朝食を毎日食べる児童」については、小学校・中学校ともに19年度と比べ若干の改善傾向が見られた。
- 同じく「家庭でのコミュニケーション」についても、小学校・中学校ともに若干の改善傾向が見られた。
- 他の設問においても、おおむね全国と同様の傾向が見られるが、詳細については現在分析中である。

## 4 その他

本資料に掲載したデータは、京都府内すべて（京都市域を含む）の受検対象児童生徒の結果であり、分析もこのデータを基に行っている。なお、当日実施できなかった学校は、後日実施したがデータには算入されていない。

# 11月に学校改善支援プラン20年版を公表予定